

「ようきてちよーた」=瀬戸弁で「よく来てくれたねえ」の意味。

# ようきてちよーた瀬戸!

編集:瀬戸市おもてなしボランティア  
季刊誌作成チーム  
発行:瀬戸市 まるっとミュージアム課

No.14 2010.1.8

## 特集!

えー! これってなあに? 瀬戸にもあったの?  
あなたの疑問にお答えします!

窯垣の小径は何で作ったの?



陶祖碑ってなあに?



陶製の鐘?



デジタルタワーって?



記念橋って何の記念?

見どころ満載、瀬戸蔵ミュージアム



瀬戸にもあった地下商店街



瀬戸の招き猫のルーツ?



磁祖 民吉が作ったの?



これって本当に陶器なの?



**陶製の鐘って？**

おそらく世界的に見ても他に類を見ない、珍しい陶製の大きな梵鐘が、瀬戸にあります。

梵鐘とは、一般には除夜の鐘で知られていますが、寺院などで使用される釣鐘のことです。本来は人を集めたり、時刻を知らせたりする時につき鳴らすものですが、この陶製の梵鐘は、この鐘の音を聞いた人も、この鐘を撞木でつき鳴らした人もいない、陶都瀬戸ならではの極めて珍しい貴重品で、市の有形文化財になっています。



(写真左) 陶製の梵鐘

なぜ陶器で作られているのか？それは、太平洋戦争末期に「金属類回収令」が出され、寺の仏具・梵鐘といえども強制供出させられたからです。当時、金属の代替品としてアイロンやボタンなど様々なものが陶製で作られており、この陶製の梵鐘もその一つです。

その後しばらくの間梵鐘は、鐘楼のバランス（台風等の倒伏防止）として実際に吊るされていました。直径80cm高さ120cm重さ約1tの現物は、深川神社の隣、現在は法雲寺の門を入った右の地上に展示されています。



(写真右) 今の銅製の梵鐘が吊るされている、法雲寺の鐘楼

**記念橋って何の記念？**

答えは、「大正天皇の行幸記念」です。

明治43年大正天皇が皇太子の時、当時の砂防工事としては最先端の、ホフマン工法の視察に、瀬戸に行幸され、それを記念して「記念橋」が作られました。このときの橋は、現在の瀬戸川に架かっている橋ではなく、瀬戸川の支流、らくちんの裏に顔を出している小川に架けられていました。この小川は今では155号線の下をくぐり、瀬戸川に流れこんでいます。

現在の「記念橋」は、昭和25年に架けられたもので、今年新たに完成した人道橋は、陶磁器製のタイルが張ってあり、発光ダイオードが夜でも橋全体を柔らかく浮き上がらせています。



(写真上) “らくちん”の裏手に見える小川。最初の橋はこの辺りだったのだろうか。



(写真左) 今年新装なった、瀬戸記念橋人道橋

**瀬戸にもあった、地下商店街でも地下じゃないぞ！**

深川神社の門前に宮前地下街があります。でもこの商店街、地上にあるのに名前は地下街なのです。

その理由は、宮前広場の高さから見下ろし、店の奥側が一部宮前広場の地下にかかる、半地下構造となっている為、この名称となったようです。

この、地下街、実は出来たのは非常に古く、今から約60年前の昭和26年瀬戸市の所有するテナントとして完成しました。



軒を連ねる半地下構造の商店街

この店舗を作った背景は、戦時中防災の目的で強制疎開させた「市営宮前駐車場」などで、この疎開により営業場所を失った店主を対象に、瀬戸市が現在の場所に、17店舗のテナントを作ったようです。今でも市の条例には、宮前地下街とあり、通称ではなく正式名称となっているのです。

軒を連ねるうなぎ屋や焼きそば屋は、知る人ぞ知る瀬戸の味です。



商店街の入口にも地下街と書かれている

**見どころ満載 瀬戸蔵ミュージアム！！**

**これって本当に陶器なの？**

瀬戸蔵ミュージアムの3階の展示の中には、戦時中の金属の代用品として作られた陶磁器製品がいくつかあります。えーっ！これ本当に陶磁器なのと、目を疑うほど本物そっくりに作られている物があります。ストーブ、洗面器、鍋、釜、水筒など



代用品の数々

ど、ガリ版の鉄筆の鉄までも代用品だったようです。

一番そっくりなのは〇〇〇。ほんとに陶磁器とは信じられない趣です。是非一度見てください。

**磁祖、加藤民吉の作品があるってほんとう？**

はい、本当です。瀬戸蔵ミュージアムの3階に展示されています。とお答えしたいところですが、定かではありません。

瀬戸蔵ミュージアムにある作品には、尾張藩の「張」の文字が底に彫ってあり、正真正銘“加藤民吉の作品”とは言い切れませんが、展示プレートには“伝”の一字がそえられています。そう言い伝えられています。と言うのが正解でしょうか…

加藤民吉は、江戸時代中期に磁器の製法を学び、瀬戸で磁器製造を広め、その功績か

ら「磁祖」として崇められています。毎年9月第2土、日曜日に盛大に行われる「せともの祭」は、磁祖”加藤民吉”の遺徳をたたえる産業祭として開催されます。

この日に掘り出し物を、と全国から集まる人で、会場は埋め尽くされるほどの賑わいを見せます。



(伝)磁祖 民吉作



**瀬戸の招き猫ルーツがあるの？**

はい。あります。

明治30年代後半、瀬戸では招き猫の量産をはじめました。瀬戸の招き猫の特徴は、本物の猫に似ていることでした。体形も顔もほっそりしていました。

今、復刻版の色つき招き猫が、ミュージアムの駅舎のガラスケースの中に飾られています。

本物は3階展示室の一番奥の黒い引出しの中にかくれています。探してみてください。白くて小さな招き猫です。また、同じ窯跡から掘り出された景品用の玩具として作られたものもあり、かわいいですよ。



招き猫のルーツ



復刻版

**デジタルタワーって何なの？**

瀬戸市幡中町の丘に約245mの高い鉄塔があります。これは地上デジタルテレビ放送用のタワーで、名古屋をはじめ伊勢湾周辺までの広い範囲に、NHKと在名民放の電波を送信しています。電波塔としては東京タワーに次ぐ日本で2番目の高さで、日本初の地デジ放送専用鉄塔だそうです。

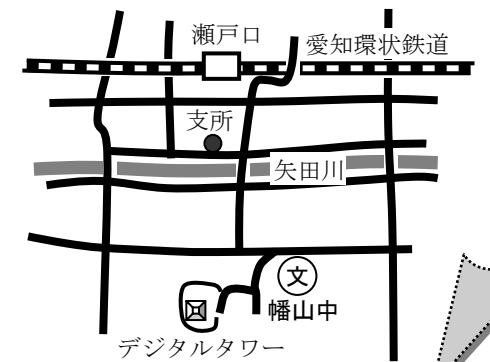
名古屋市では都市公園法等の制約から建設は困難だったことと、瀬戸市から積極的誘致の働きかけもあり、この地に建設されたそうです。



タワー全景

瀬戸市消防署の“火の見やぐら”にもなっていることを知っていますか。消防用防災カメラが設置してあり、3秒毎の瀬戸の画像が、遠景ですが消防署インターネットサイトで見られます。

タワーの隣には「瀬戸市デジタルリサーチパークセンター」があり、スタジオ、研修室、自由に利用できるインターネットコーナー（施設予約がない日に限る）などがあります。またタワー上部に設置された自由に遠隔操作できるカメラの映像を見られるコーナーもあり、周辺の景色を楽しむことができます。





## 陶祖碑ってなあに？

### 見てビックリ！世界最大級のやきもの

陶製の物としては世界最大で 4.1mの高さという六角陶碑が、陶祖公園にあります。

この陶碑は、瀬戸のやきものを広めたと言われる陶祖・加藤四郎左工門景正（別名：藤四郎）の功績を記念して、幕末の名工が中心となって成形・焼成し、江戸時代（慶応2年）に建立されたものです。尾張藩庁の経済的支援を受けて建立され、当時の金で約一千両かかったといわれています。

製作時の苦労話としては、碑の図体が何分にも大きい為、品物を窯の中に入れて焼く事が出来ず、仕方なくいきなり丸窯の中で品物を作り、焼きあげ、出す時には窯の口をこわして取り出す始末だったといわれています。

柱や台など39個のやきもので組み合わされていますが、寸分の狂いもなく、均整の取れた碑に仕上げられています。碑の側面には、陶祖藤四郎の伝記が克明に刻まれています。

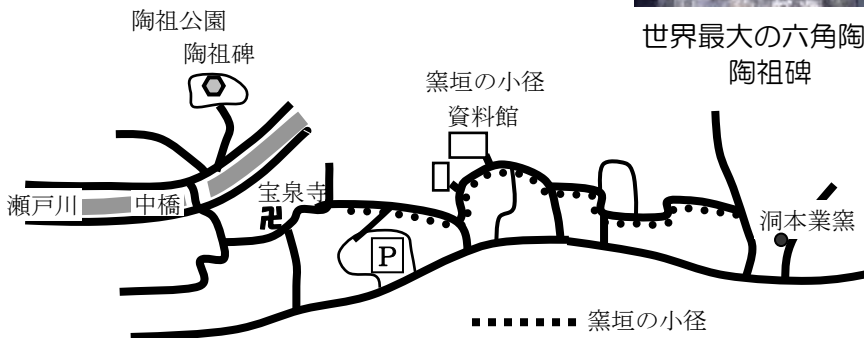
この陶祖藤四郎の功績を称えて、毎年4月の第3土日に陶祖まつりが行われています。



世界最大の六角陶碑  
陶祖碑



このお堂の中にあります



窯垣の小径（駐車場付近）

## 窯垣の小径は何で作ったの？

洞町にある「窯垣の小径」は、窯道具で築かれた壁や垣根が沿道を飾る 400m の散策道です。

窯道具とは、かつて薪や石炭で窯を焼いていた時に、製品に火や灰が直接当たらないよう保護するためや、窯中へ効率よく詰込む為に使ったもので、たないた（えぶた）、つく、えんごろ（さや）などが使われました。

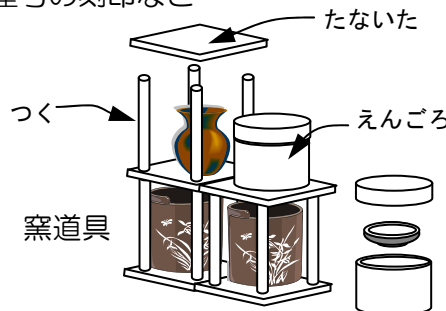
連なる塀や壁に、小皿や茶碗なども一緒に埋め込まれ、不用になった窯道具が幾何学模様になり積み重ねられています。何度も使われたその窯道具は、自然釉薬が重なってかきり、2つとない色合いを醸し出し、また、窯元ごとの屋号の刻印など

もあり、通る人の目を楽しませてくれると同時に、焼き物の街であることを実感させてくれます。

小径の途中には、実際にあった窯元の家で、明治初期の建物を改修した「窯垣の小径資料館」があり、昔の窯元の暮らしぶりなどを紹介しています。水曜の休館日以外は、毎日ボランティアさんによるあたたかいおもてなしもあります。かつて窯焼き職人が往来した道を、ゆっくり歩いてみませんか。



美しい幾何学模様



えんごろ（窯印が見える） つく たないた

\*この季刊誌「ようきてちよーた瀬戸！」は、瀬戸市おもてなしボランティアの季刊誌チームメンバーが、ボランティアの目線で瀬戸の観光情報取材し、作成しています。ぜひ、誌面に対するご意見・ご感想を事務局までお聞かせください  
《瀬戸市おもてなしボランティア事務局》

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町1番地の1  
TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 E-mail: [marutto@city.seto.lg.jp](mailto:marutto@city.seto.lg.jp)

